

日本産藻類分布資料

I. 汽水藻

1. *Caloglossa ogasawaraensis* OKAM. ホソアヤギス, 造力武彦, 大阪市十三, 阪急電鉄淀川鉄橋下川底石上, 多量, 昭44.8及び昭45.10。

催しと消息

1. 尾形英二氏 独逸キール大学海洋研究所にて GESSNER 博士との協同研究を終えて8月帰国。
2. 渡辺 篤氏 オランダ Wageningen で開かれた IBP/PP Technical Meeting on Biological Nitrogen Fixation に出席, 9月帰国。
3. 新崎輝子氏 スイス Türich で開かれた国際生化学会議出席を主として, 世界一周を終え10月帰国。
4. 淡水藻懇話会 10月20日愛媛大学の会場で, 全国から集った同学の士25名が, 1969年中に発表された淡水藻関係の論文の紹介など聴きながら懇親の実をあげた。この時配布(購入)された「淡水藻文献リスト1969年分」と, 近々印刷上りの「淡水藻」とはそれぞれ実費 100円で購入できますので, 所定の金を添え 〒177 東京都練馬区東大泉 675山岸高旺氏宛申込まれたい。

第7回 国際海藻学会議準備経過報告

この国際会議は1952年に始まり, 第1回は英国で開催され, それ以後3ないし4年毎に各国の輪番で会議がもたれ, 第7回目が日本で来夏開かれることになった次第であります。日本学術会議はこの国際会議の日本国開催の意義を認め, 傍ら閣議の了解も得られたので, 日本開催の手續をき鋭意進めてきました。主催は日本学術会議と国際諮問委員会であり, 後援として, 日本藻類学会, 日本水産学会, 日本植物学会, 日本植物生理学会が当ることになりました。

本会議は札幌で, 昭和46年8月8日より12日迄に, 一般講演, 特別講演が行なわれ, なお会議中の1日室蘭への海藻採集ツアーが予定されており, 札幌に引続いて13日より16日迄関西地区で現地討議, 見学, 観光が予定されています。

会議の運営は日本学術会議と国際諮問委員会との共催によって行なわれますが, 実際には日本学術会議が, 前記の後援4学会, 文部省, 水産庁其他から選んだ人々からなる第7回国際海藻学会議組織委員会が当り, 組織委員の互選による数名の実行委員が企画立案しています。組織委員は24名よりなりますが, うち16名は本藻類学会会員で当ります。

既に第1回案内は6月に発送され, 第2回案内も間もなく発送されますが, 呼びかけに応じた内外国人の数は既に400名を越え, その国籍も30以上となって, 会議の盛会が予想されます。内外多数の藻類学者が一堂に会する機会は滅多にありません。本学会会員多数の参加を望んでやみません。

(11月20日広瀬記)